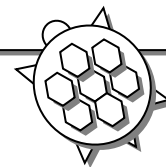


亀さん通信

過ごしやすい季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか！

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかり・確実に身に付けていただく【亀さん通信】第 132 号発信です！

普通のサラリーマンだった私が…



今回は、まず次の文章にお目通しください。

■妻の病をきっかけに … A さん (71 歳)

「なんでこんな辛い思いをしてまで、長生きしなきゃいけないんでしょうか」着古したジャージに身を包んだ A さんはそうつぶやく。6 年前に妻を亡くしてから、自宅でひとり「亡骸」のような日々を送っているという…

A さんは大学を出て、食品メーカーに 38 年間勤務し、60 歳で退職。定年後は妻と穏やかな老後を送ろう、そう思っていた。ところが、半年後、妻にがんが見つかった。妻の命のために、カネを惜しむという選択肢はなかった。3,000 万円という貯金額は 6 年間でみるみるうちに目減りし、気づいたときには、もう手遅れ。現在は月 14 万円の年金だけで生活している…

「実は 40 代になる息子がいて、うつ病を患って会社を辞めてから家に引きこもっているんです。私の年金だけでは暮らしていけない。何度も死のうと考えましたが、息子がいますし、天国の妻がそれを知ったら悲しむだろうと思って、**必死で生きている状態です…**」

■子や孫には言えない … B さん (73 歳)

B さんは大学卒業後、警備会社に就職。定年後も再雇用制度を利用して働き続けていた。しかし、腰痛が悪化して欠勤の日が増え、結局、会社に居づらくなって 2 年で自主退職。以来、退職金と年金収入のみで暮らすようになる。

「B さんの場合、腰痛の治療費に加え、退職後に**軽度の認知症を発症**したのが、破産にいたった大きな要因でした」

B さんを保護した NPO の担当者はそう語る。B さんは妻を 60 歳の時に亡くし、子供も離れて暮らしていたため、誰も苦境に気づかなかった。息子さんも帰省した際に「少しカネ遣いが荒くなった」と感じたようだが、「自由にさせてやろう」と放っておいたそうです。しかし、**判断力の低下による無駄遣い**で、あつという間に退職金は底をついてしまった。B さんが万引きで捕まった時、「子供や孫には言わないでくれ」と懇願されましたが、面会に来た息子さんに対して、「**たった 10 年でどうしてこんなことに**」と嘆いていました…

■頼りになるはずの子供が … C さん (69 歳)

「持ち家だし、庭の畑で野菜を作っているし、生活費は光熱費とガソリン代、そして趣味のゴルフや付き合いの飲み代くらいなもの。子供達も独立しており、何年も前にローンは完済。今まで懸命に働いてきた分、『さあ、老後を楽しもう』と暢気に考えていました」C さんは、建築設計事務所の正社員として定年まで勤め上げた。現役時代は、よく働きながらも、同僚と飲んだり、サラリーマン生活を謳歌。退職時には、退職金を含めて 2,500 万円ほどの貯金と、株券や保険等を合わせて**総額 4,000 万円程度の資産**があった。

「きっかけは、息子が起こした交通事故でした。100%こちらに責任のある事故で、相手は障害を負ってしまいました。しかも、運の悪い事に 1 ヶ月前に保険が切れていたんです。慰謝料に 1,000 万円、治療代や入院費、障害が残ったことで必要になった家の改築費など、**総額で 5,000 万円も相手から請求**されました。裁判をしても息子の過失責任は逃れられないと覚悟し、そのまま払うことに…」

毎月 30 万円の賠償金に息子の給料はほぼ天引きされ、C さんも貯金や保険等を全て解約したが、**5,000 万円には到底足りなかった…**

いかがでしたか。私は震え上がりました。悠々自適な老後を送れるはずだったのに、気がつけば、**想像だにしない厳しい現実**と向き合わざるを得ない。上記は全て実話であり、事実、破産状態に陥る高齢者が今急増しています。およそ **16 人に 1 人が老後破産の状態**にあるそうです。想像力は、知識や情報から生まれます。人間は見たことも聞いたことも読んだこともない、そんな世界を想像することは絶対にできません。しかし、今回の発信で、みなさんは老後破産の実状を知り、**その世界を想像**することができるのです。楽観主義でもなく、悲観主義でもなく、危機管理の要諦は、**最悪を想定して最善を尽くす**ことに他なりません！

読書の秋ということで、敬遠していた「Kindle Paperwhite」を買ってみました！

(株)亀山保険事務所 亀山裕弘 (ミルロ) 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com